

生き方を学ぶ勤労体験学習

—美浜町立河和中学校—

1 学校及び地域の概要

本校は、山と海に囲まれた自然豊かな地にある。学校周辺部は町の中心地に近く、公共施設や商店も多く存在し、駅も近いことから、周辺市町へのアクセスも便利な地区である。また学校から西部に向かうと、田畑が開け農業の盛んな側面も見ることができる。

2 活動の紹介

(1)実施日（基本的に3～5日間）

7月22、23、24、25、26、27、30、31日

8月4、5、6、7、8日

（各事業所の都合による）

(2)参加生徒数

第2学年 168名

(3)受入れ先事業所数及び活動人数

事業の種類	事業所数	活動人数	事業の種類	事業所数	活動人数
建設業	2	4	医療、福祉	12	46
情報通信業	2	3	教育、学習支援業	2	7
卸売・小売業	15	36	その他サービス業	9	21
飲食店、宿泊業	20	44	公務	2	7
			計	64	168

(4)活動日程と概要

本校の2年生の総合的な学習の時間（前期）では、「生き方」をテーマとしている。勤労体験学習はその一つの活動として位置づけている。学習の流れは以下のようなものである。

《2年生前期 総合的な学習の時間学習計画案》

第1時 2年生の総合的な学習の時間について学習の流れを知る。

第2時 将来の生き方や職業について話し合う。

第3～7時 自分の興味ある職業について調べをしてまとめる。

第8～9時 勤労体験の職種を決める。マナーについて学ぶ。

第10～11時 事業所に勤労体験のお願いをする。

第12～13時 勤労体験を行うにあたって課題を決める。

第14時 勤労体験の事前指導

夏休み 勤労体験（3～5日間）

- 第15時 勤労体験を振り返り学んだことを話し合う。
- 第16時 勤労体験先にお礼の手紙を書く。
- 第17～18時 各クラスで発表会を行う。
- 第19時 前期の活動を振り返り自己評価をする。

(5)参考となる取り組み

- ・先に示したように本推進事業を総合的な学習の時間の活動に取り込み、勤労体験学習に取り組んだことがあげられる。勤労体験を実施するにあたっては、自分の将来についてじっくり考えるために勤労体験で何を学んでくるかという課題をもたせた。
- ・受け入れ先の確保については、できるだけ校区を中心にして事前に文書で依頼した。また新たな事業所をお願いする場合は実際に教員が訪問をして依頼をした。



3 成果と課題

(1)成果

- ・生徒への事後アンケートでは、「よい体験ができ、勉強になった。」という感想が多くあった反面、「とても大変だった。」「父親、母親がいかに大変かがよく分かった。」という感想も多かった。社会・仕事の厳しさを実感した生徒が多かったようである。
- ・中学生の姿を地域の方に知っていただくよい機会だと感じた。
- ・生徒の保護者からは良い経験をさせてもらって感謝しているとの声をいただいた。
- ・「あいち・出会いと体験の道場」の事業費を、勤労体験学習の依頼文書や礼状の郵送費、勤労体験時の教員の巡回指導旅費として有効に使うことができた。



(2)課題

- ・勤労体験を受け入れていただく事業所が校区内の事業所だけでは確保しきれないため、校区外や他の市町の事業所にもお願いしている。そのため他の中学校との重なりが生じ、受け入れができなかったり、日程の変更をしたりすることがあった。
- ・生徒が事業所を決定する際、友達と同じ所という基準で選んだり、事前学習で行った「興味のある職業調べ」と実際に勤労体験した職種が結びついていなかったりした生徒がいた。
- ・実施日が夏休みに入って少ししてからということもあり、休み前の事前指導から実施日まで少し間があいてしまったので、心配な面もあった。
- ・事業所によっては、生徒の仕事内容が少なく、十分な体験とはいえないこともあった。事前の打ち合わせや、事業所の選び方をさらに工夫しなければならない。

平成 20 年度 職 場 体 験 学 習

知多郡武豊町立武豊中学校

1 学校及び地域の概要

本校は、知多半島のほぼ中央部、東沿岸に位置し、生徒数 804 名、23 学級の大規模校である。1947 年開校の歴史と伝統に溢れ、校訓「親和・協力」のもと、健康な心身と豊かな知性を求め、広い視野に立って、進んで社会に尽くすことができる若人の育成を目指している。

武豊町は、味噌、たまりなど伝統ある産業や稲作と酪農、花や野菜の栽培などの農業が盛んであり、平成 20 年秋には「全国醤油サミット」も開催された。

2 活動の紹介

(1) 実施日

平成 20 年 8 月 4 日～8 日までの 3 日間で実施

(実際には、事業所の都合により 7 月 28 日～8 月 22 日の期間での実施)


(2) 参加生徒数


第 2 学年 270 名

(3) 受け入れ先授業所数及び活動人数

事業の種類	事業所数	活動人数	事業の種類	事業所数	活動人数
農 業	2	3	金融・保険業	0	0
林 業	0	0	不動産業	0	0
漁 業	0	0	飲食店・宿泊業	6	20
鉱 業	0	0	医療・福祉	26	88
建設業	2	3	教育・学習支援業	6	17
製造業	7	18	複合サービス事業	1	4
光熱水事業	1	1	その他のサービス業	17	39
情報通信業	1	3	公 務	6	14
運輸業	0	0	分類不能の産業	4	7
卸売り・小売業	18	53	計	97	270

(4) 活動日程と概要

< 事前学習 > 1 年生	1 2 月	・フリーター・ニート対策授業 (講師 鳥居徹也先生) ・働く意義についての学習 ・身近な人の職業調べ	
	2 年生	2 月 5 月 6 月 7 月	

<p>< 事後学習 ></p>	<p>8月 9月 10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所への礼状作成 ・ まとめのレポート作成 ・ 体験学習発表会 	 <p>(製菓業での体験の様子)</p>
-----------------------	--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

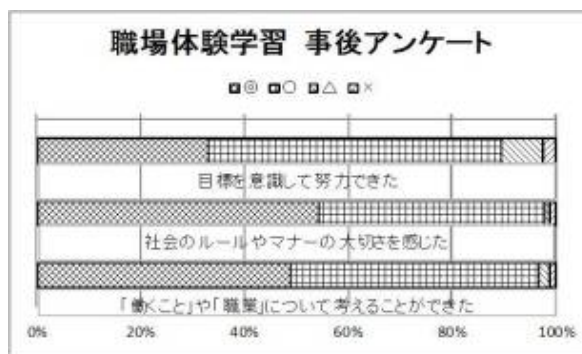
(5) 参考となる取り組み

- ・ 「マナー講座」の講師の確保は、NPO 法人「アスクネット」に依頼した。
- ・ 職場体験学習を依頼する事業所は、「武豊町青少年体験活動・ボランティア活動支援センター」のリストを参考にし、求人票を掲示して募集する形をとり、希望理由をもとに教員が選考し決定した。
- ・ 1年時の職場見学に引き続き、保護者の働いている事業所にも協力を呼びかけ、受け入れてもらったケースもある。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 自分の夢と結びついている体験の中で、新しい発見をしたり、やりがいを感じたりして、さらに希望を膨らませた生徒もいる。反面、仕事の大変さや苦勞を感じ、自分の進路の再検討に入った生徒もいる。体験先を真剣に考えなかったことを反省している生徒は、今後、職業選択をする際（就職時）に、少しは生かされていくのではないかと考える。
- ・ 事業所からは、「指示を受けて行動するのではなく、こちらの動きを見てどう動くのか、何をしたらよいのかということを考え、自ら行動していくことを学んでくれた生徒もいた」という声も届いた。



(2) 課題

- ・ アルバイト体験と思われるような職場を希望する生徒も多いように感じる。
- ・ 職業によっては、体験が不可能な職場も多い。職場見学となってしまっている職場もある。
- ・ フライトアテンダントなど職場体験できない場合などでは、理想と現実の差を埋められない生徒も多くいた。もう少し自分自身のことがかかる年齢（高校生、大学生）に体験させた方が働くことの意義がわかるのではないと思われる。
- ・ 「マナー講座」では、職場体験への意欲を高めることができよい機会となったが、実際の体験には生かされず、あいさつや返事が大きな声でできなかった。日常生活での継続した指導が必要であると痛感した。

「I Will Be …」 職場体験学習

一色町立一色中学校

1 学校及び地域の概要

一色町は、矢作川と矢作古川によってつくられた三角州地帯にあり、漁業や栽培漁業(養鰻)、カーネーション栽培、えびせんべい製造が全国的にも有名である。本校は一色町の南端に位置し、全校生徒は750名程度で、広大な敷地を生かし、部活動も盛んである。体育祭の応援合戦や、文化祭の合唱コンクールといった行事はもちろん、日常でも自分たちの生活レベルを高める取り組みを行い、集団のレベルアップを図っている。

2 活動の紹介

(1) 実施日 平成20年10月21日(火) ～23日(木) 3日間

(2) 参加生徒数 第2学年 241名

(3) 受け入れ先事業所及び活動人数

事業の種類	事業所数	活動人数	事業の種類	事業所数	活動人数
農業	2	6	金融・保険業	2	4
林業	0	0	不動産業	0	0
漁業	2	10	飲食店・宿泊業	7	22
鉱業	0	0	医療・福祉	6	20
建設業	4	4	教育, 学習支援業	10	57
製造業	3	16	複合サービス事業	0	0
光熱水事業	4	8	その他サービス業	7	14
情報通信業	1	1	公務	1	6
運輸業	2	7	分類不能の産業	1	2
卸売・小売業	26	64	計	78	241

(4) 活動の日程と概要

- 6月
 - ・学習全体の概要説明を行う。(学年集会)
 - ・職業適性検査を行う。
- 7月
 - ・職業適性検査をもとに、自分の職業の希望と適性について考える。
 - ・なぜ働くのか、働くことの意義について話し合う。
 - ・自分の就きたい職業について、個人追究をする。
- 9月
 - ・事業所との連絡をとる。(受け入れの可否、受け入れ可能人数を教師が確認)
 - ・生徒が希望する事業所の調査を行い、体験先事業所を決定する。
 - ・体験活動での追究課題を設定する。

- 10月
 - ・生徒から事業所への依頼をする。(電話による)
 - ・現地への行き方、マナー、注意点、非常事態への対処方法などについて指導する。
 - ・事前訪問を行う。
 - ・職場体験学習本体験を行う。
 - ・事業所へのお礼状を書き、発送する。
 - ・事業所へ職場体験活動についてのアンケートを依頼する。
- 11月
 - ・事業所からのアンケートをまとめる。
 - ・「働く意義」についての話し合い、職業についての理解を深める。

(5) 参考となる取り組み

- ・事業所への事前訪問を行うことで、本体験前に礼儀や活動内容、通勤方法などについて生徒が実感を持って理解することができ、体験への意識高揚を図ることができた。
- ・事業所へのアンケートをお願いして、生徒の様子や職場体験活動に対する各事業所の思いを知ることができ、次年度に向けての改善点を見つけることができた。



スポーツ施設の窓口で受付係を体験

3 成果と課題

(1) 成果

- ・職業適性検査を行ったことで、生徒が自分を客観的に見つめることができ、また自分の職業適性を知り、職場体験先の選択に役立てることができた生徒が多かった。
- ・現場で職場体験することにより、生徒は働くことの厳しさや責任を果たすこと、協力することの大切さを学ぶことができた。
- ・自分が取り組んだ仕事で、できた製品やお客さんの笑顔などの成果を得て、仕事に対するやりがいを感じた生徒が多かった。
- ・事後指導で、何のために働くかをテーマに議論する中で、働くことの意義について深く考え、「仕事のやりがい」も職業を選択する上で重要であることに多くの生徒が気づいた。



消防組合での体験

(2) 課題

- ・他校と日程が重なる職場も多く、体験日や人数に制約を受けた。例年受け入れていただいている事業所に断られたりすることもあり、事業所の確保が難しかった。
- ・事業所の範囲を、町内もしくは隣接市・町に限ったため、事業所の数が不足しがちであった。しかし、この範囲にもまだまだ協力をお願いできる事業所がありそうなので、より積極的に体験先を開発していくことが必要であると痛感した。
- ・アンケートによれば、「体験期間は3日以内にしてほしい」という事業所が多く、学校で職場体験のために確保できる日数という点から見ても、5日間の体験活動を確保することは、今後もなかなか難しいと思われる。

生き方学習「働くということ～人はなぜ働くのか～」

—幡豆郡吉良町立吉良中学校—

1 学校及び地域の概要

本校は生徒数646名、20学級の規模である。町内唯一の中学校であることから町民の本校に対する期待は大きいものがあり、保護者の教育に対する関心も高い。平成元年度より、町ぐるみで生涯学習の推進が図られている地域でもある。

学校環境緑化で内閣総理大臣賞を受賞した本校は、けやき並木を中心に四季折々の変化に富んだ自然環境の美しい学校である。校訓『自立・友愛・礼節』に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」をもつ生徒の育成をめざしている。

2 活動の紹介

(1) 実施日

平成21年1月21日(水)～23日(金)の3日間

(2) 参加生徒数 第2学年 233名

(3) 受入先事業所数及び活動人数

事業の種類	事業所数	活動人数	事業の種類	事業所数	活動人数
農業	2	3	金融・保険業		
林業			不動産業		
漁業			飲食店、宿泊業	14	22
鉱業			医療、福祉	12	24
建設業	3	5	教育、学習支援業	14	54
製造業	5	11	複合サービス事業	6	20
光熱水事業			その他サービス業	16	23
情報通信業			公務	10	35
運輸業			分類不能の産業	1	3
卸売・小売業	18	33	計	101	233

(4) 活動日程と概要

〔事前学習〕働くということについて考える

- 10月
- ・わたしの将来の夢(自分の将来の夢を語り合う)
 - ・かつての夢と現在の職業について(家の人への聞き取り調査)
 - ・働くことの意義(人はなぜ働くのか)



〔職場体験中の生徒の様子〕

- 1 1月 ・ 追求活動中間発表会（学級）
 - ・ 職場体験学習先希望調査、調整、決定
 - ・ 事業所との打ち合わせ（職員による事業所への協力依頼）
- 1 2月 ・ 生徒が事業所への依頼
 - ・ 職員が各事業所訪問
- 1 月 ・ 事前訪問指導（事前訪問に向けての服装、言葉づかい、マナー等）
 - ・ 生徒が事業所事前訪問（自己紹介、実習での心構え等）
 - ・ 職場体験学習（3日間）、職員は事業所の巡回をする。

〔事後学習〕まとめと共有化

- 2月 ・ 礼状書き
 - ・ 個人の追求のまとめ（レポート）
 - ・ 学級内で共有化（学級ごとに体験の発表会）
 - ・ 学年共有化（代表者による学年発表会）
 - ・ レポート集作成



〔学級発表会の様子〕

（5）参考となる取組

事後学習として他の生徒の体験発表を聞く場を設けた。これにより、自分の経験できなかった職場の様子・体験内容を知ることができるとともに、いかにわかりやすく発表するかというプレゼンテーションの訓練になった。

3 成果と課題

（1）成果

- ・ 2日間の場合、実質的な活動が不十分になりがちであったが、3日間と増えたことにより、活動がより充実した。体験できる内容が増えたり、同じ体験内容であっても、生徒自身が進歩を感じることができるまで活動させていただくことができた。
- ・ 働く人の姿を間近に見て、自らも体験することで、これまで頭でしか考えてこなかった「働く」ということに対し、新しい発見があった。生徒たちの職場体験学習のまとめには、「お客さんが喜んでくれるのがうれしい。」「自分がこれまで受けた恩返しだと思っている。」等のインタビューの言葉と、「早く自分も本当になりたい仕事を見つきたい。」「がんばれば、あこがれの職業に就けるという自信がわいた。これからもがんばりたい。」等の感想が書かれており、体験先での感動が読みとれた。

（2）課題

- ・ 5日間の実施をしたいが、2日間以内の受け入れを希望する事業所があり、現状の3日間実施がやっとという感がする。
- ・ 定休日などがあり、3日間体験できない場合がある。

Dream Project

～夢を形に～

— 幡豆町立幡豆中学校 —

1 学校および地域の概要

幡豆町は、愛知県の南部、三河湾の中心に位置する町で、蒲郡市、吉良町、幸田町と隣接している。南は三河湾に面し、北はやや険しい山となっている。三河湾国定公園を構成する三ヶ根山が町の東部にあり、町全体が美しい自然に囲まれている。幡豆町には、二つの小学校と一つの中学校がある。幡豆中学校は、普通学級12クラスと特別学級2クラスの合計14クラスである。生徒はおだやかに学校生活を送っており、地域との連携も良好である。

2 活動の紹介

(1) 実施日

平成20年10月22日(水)～24日(金)

(2) 参加生徒数

第2学年 123名

(3) 受入先事業所数及び活動人数(全38事業所)

①商業(飲食、販売(小売、卸売)、金融など)	(20事業所、45名)
②サービス(理容店、貸館、宿泊、文化スポーツなど)	(4事業所、14名)
③工業、建設(製造業、建築、土木など)	(2事業所、10名)
④農林水産業	(2事業所、6名)
⑤公立施設(市役所など)	(4事業所、14名)
⑥民間の病院、教育、保育、福祉	(6事業所、34名)
⑦その他	(0事業所、0人)



(4) 活動日程と概要

6月・『進路クラブ』を使って、自分の適性について知る。

7～8月・体験場所の確保…昨年度までの受入事業所を中心に、体験の日程と受入可能人数を調査しながら、お願いし、受入可能事業所を確保した。(教師)

9月・体験場所の決定…職場体験の目的について学年集会を行い、体験場所のアンケート希望調査を実施した。本人の希望、職場からの要望などを考えて体験場所を決定した。

・各事業所に依頼文書配布(教師)

10月上旬・電話連絡…生徒から訪問先へ電話連絡をして、体験人数と担当者の氏名、事前訪問の日程と場所を確認した。

・事前訪問…交通手段、あいさつの仕方、事前訪問での確認事項を指導し、体験場所を訪問した。

10月下旬・直前指導…事前訪問での指示を確認して、班ごとに活動の目的、心構え、活動時間

服装、持ち物、緊急時の対応などについて再度指導した。(教師)

- ・職場体験学習…担当職員で、5～8か所の事業所を1日1回は訪問し、生徒の活動状況を把握し、記録をした。(教師)
- ・報告用紙作成・礼状作成…体験した内容、感想などをまとめて1枚の報告書にまとめた。同時に事業所へ心を込めた礼状を作成した。
- ・事後訪問…礼状を持って、各事業所を担当職員が訪問した。

- 11月・レポート集作成…体験後の報告用紙をもとに、一人一人がレポートにまとめ、学年で1冊のレポート集を作成した。
- ・体験の共有…各学級でそれぞれレポートをもとにして、体験発表を行い、共有化を図った。

(5) 参考となる取組

- ・2年生の総合学習を1年間の流れとしてとらえ、7月上旬の「乗鞍自然体験教室」の中で、『今の自分を見つめる』活動を行った。この「職場体験学習」は、『自分の将来を見つめる』活動と位置づけた。3月に行われる「立志の会」においては、『自分の生き方を見つめる』とし、自分とそれを取り巻く人々について考えさせる。このように、職場体験学習のみの活動ではなく、1年間を「自分」に関わる学習を進める総合学習として位置づけた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・3日間の活動で、1日目は仕事に慣れる。2日目は仕事を覚え、一人前に働く。3日目は自分から動く。というように、日を迫うにつれて生徒の動きが変わり、活動内容が充実していく様子を実感できた。
- ・3日間の中で、職場の方との人間関係も深まり、仕事をしながらこの職業に就いた理由や、仕事をする中の喜びと苦勞などを親身に話してくださる職場もあった。そのため、老人施設体験をした生徒の中には、体験学習が終わってからも職場と連絡を取り、休日のボランティア活動に出かけた生徒もいた。
- ・職場で、あいさつや礼儀、返事の仕方などを指導していただき、仕事の内容や必要な資格だけでなく、人と人のより良いコミュニケーションについて学習する場にもなった。



(2) 課題

- ・特に販売業については、定休日や特売の準備で体験が休みになってしまう事業所があった。
- ・他校の体験活動の時期と重なることがあり、体験場所の確保が難しい。
- ・町内には、中小の事業所が多いこともあって、生徒が将来希望するような職種の事業所がなかなか見つからず、希望通りの職種にならないこともあった。しかし、「働くことについて知る」という目標で学習を進めてきたので、社会の厳しさを知り、自分の将来を見つめる良い機会であると指導を加え、目標が達成できるようにしていきたい。

生き方発見プロジェクト

—幸田町立幸田中学校—

1 学校及び地域の概要

幸田町は岡崎市、西尾市、蒲郡市などと接し、広田川を中心に平野が広がっている。近年、工場や住宅が増え、発展を遂げている。また、温暖な気候に恵まれ、緑豊かな自然に抱かれた美しい町である。

本校は、生徒数548名、特別支援学級を含めて、全18学級の中規模校である。ここ数年欠席者数も少なく、生徒たちは毎日元気に登校し、落ち着いた生活を送っている。

2 活動の紹介

(1) 実施日

平成20年6月9日（月）～6月11日（水）
の3日間

(2) 参加生徒数 第2学年208名



(3) 受入先事業所数及び活動人数

事業の種類	事業所数	活動人数	事業の種類	事業所数	活動人数
農業	3	11	金融・保険業		
林業			不動産業		
漁業			飲食店、宿泊業	11	27
鉱業			医療、福祉	11	25
建設業	6	20	教育、学習支援業	12	51
製造業	6	12	その他サービス業	10	33
情報通信業	2	4	公務	5	24
運輸業	1	2	分類不能の産業	1	1
卸売・小売業	17	62	計	85	272

(4) 活動日程と概要

- 3月 ・「生き方発見プロジェクト」のオリエンテーション
 - ・職業適性検査
 - ・職業調べ
- 4月 ・職場体験学習の事業所への依頼（教師）
 - ・希望調査
- 5月 ・職場体験学習の受け入れ先決定

- ・事前指導（電話によるアポ取り、マナー指導）
- ・事前訪問（生徒）
- 6月 ・**職場体験学習**
- ・お礼状作成、発送
- 7月 ・職場体験学習のまとめ
- 9月 ・事業所ごとの体験記（文集）を作成
- 1月 ・体験記（文集）完成、配布・送付



自動車整備工場にて

（5）参考となる取組

- ・受け入れ先については、過去の受け入れ先を参考にし、極力、町内の事業所をお願いをした。
- ・職場体験前に職業適性検査の時間を確保し、生徒の職場体験に対する目的意識を高めた。
- ・職場体験の際には、生徒にカメラを持たせ、活動の様子を記録した。その写真を使い、まとめレポートの作成を行った。
- ・事後学習として、職場体験記を作成した。また、各事業所からアンケートを取り、生徒の取り組みの様子を把握するとともに、来年度に生かせるように資料として残し、職員で共通理解を図った。

《職場体験の感想文より》

私は職場体験で特別養護老人ホームつじヶ丘に行きました。そこで、私はお年寄りとコミュニケーションを取ったり、スタッフの手伝いをしたりしました。十分にお年寄りの役にたったとは思えなかったのに、ほとんどのお年寄りから笑顔で「ありがとう。」と言っていただいたことはとてもうれしかったです。3日目は帰るのがとても辛かったです。今回の職場体験で、人にはそれぞれにあった接し方があり、それが大切なんだということを学びました。この経験を生かして、これからの学校生活を頑張っていきたいです。

3 成果と課題

（1）成果

- ・事前に適性検査を行ったことで、目標のはつきしなかった生徒も、具体的な職種を挙げ、事前調べを行うことができた。
- ・3日間を通して、同じ事業所で体験することで、見通しをもって自ら主体的に判断し、行動することができるようになった。
- ・仕事内容だけでなく、社会のルールやマナーの大切さ、礼儀などの大切さも学ぶことができた。

（2）課題

- ・定休日などが重なり、体験先が複数になってしまう生徒がいた。
- ・あいさつ、返事、話す時の声の大きさなどを日ごろからもっとできるように指導しておくべきであった。
- ・町内での受け入れ可能な事業所を開拓するためにも、保護者に職場体験の目的を理解してもらい、受け入れ先確保に協力していただくことも考えていきたい。



農園にて